

令和8年度 第1回 恵庭市

安全で安心なまちづくり実行委員会

議事録

日時 令和8年5月25日（月）15時30分～16時30分

会場 恵庭市役所3階 第2・3委員会室

<出席者>

会 長 原田市長

委 員 中川委員、笹森委員（代理坂口様）、櫻田委員、杉若委員、前田委員、久保委員、
新川委員、中村委員、菊池委員、渡邊委員、水元委員、藤本委員、山本委員、

欠 席 亀石委員、佐々木委員、辻委員

事務局 山口生活環境部長、狩野生活環境部次長、加賀谷生活環境課長、
中村生活環境課主任主事、吉成生活環境課主査（議事録作成）

傍聴者 なし

1 開会宣言（加賀谷課長）

2 委嘱状の交付

改選のため全員に委嘱状交付

3 会長挨拶（原田市長）

ただいま新たに委員なられた皆さまに委嘱状を交付させていただきました。どうぞ、これからも宜しく願います。

委員の皆様には日頃より市勢の各般にわたり多大なるご支援とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。本実行委員会は、市民が安全・安心に暮らせるまちを実現することを目的に組織されており、皆様には委員として様々な施策への提言をいただきながら展開しているところです。

昨年度、令和12年度を期限とする新たな計画を策定いたしました。本年度はその初年度にあたり、「第4次計画」に基づいて、安全なまちづくりに向けた各種施策を毎年度進めてまいります。

警察当局からの報告によりますと、恵庭市内の犯罪状況は、令和6年と比較して窃盗犯が増加傾向にあります。また、依然として電話やメールによる悪質な情報提供や特殊詐欺の手口が一向に途絶えず、厳しい状況が続いています。

交通安全に関しては、おかげさまで一昨年1月以来、交通死亡事故ゼロの期間が800日を超えております。まずは1,000日の達成を一つの目標として、今後もこの記録を継続させていきたいと考えております。

市といたしましては、今後も安全・安心な街づくりを推進してまいります。委員の皆様には、サポート体制の構築に向けた貴重なご意見をこの委員会にお寄せいただきたいと思います。

最後になりますが、警察当局をはじめ各関係団体の皆様のご尽力に改めて感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

4 委員および事務局員の自己紹介（各委員、事務局員）

5 議 事

1) 副会長の選出について（原田会長）

⇒ 恵庭市安全で安心なまちづくり実行委員会設置規則第4条第2項の規定により、会長が副会長に櫻田氏を指名。

2) 令和8年度推進方策及び具体的な施策について（吉成）

⇒ 資料2のとおり説明

⇒ 資料3のとおり説明。

⇒ 資料4は新たな事業、変更した事業等、主だった内容（赤字）を中心に説明

【 質 疑 】

久保委員：

自転車関係に力を入れているということでした、自転車ヘルメットの（幼児・小学生・中学生）購入助成事業と高齢者向けの自転車ヘルメット普及促進モニター事業についてももう少し詳しく教えてください。

吉成（事務局）：

自転車ヘルメット購入助成事業については、まず幼児・小学生向けですが、令和7年度は203名の実績ということではほぼ予算通りの執行となっています。令和8年度は100名の規模で実施を予定しています。

つぎに中学生向けについては500名分の予算となっており、現状約90名からの申し込みがあります。

高齢者向けのモニターについては、令和7年度は25名、令和8年度も応募が多く抽選となりましたが、25名を対象としております。

原田会長：

補足ですが、自転車ヘルメット助成事業の幼児・小学生については、令和7年度は100名程度を当初予定としていましたが、予定よりも多くのお申込みを頂いたので追加したところです。本年度についても不足があれば追加対応を考えています。

中学生向けは自転車通学を許可されているが、部活動で自転車を利用する生徒が対象となっています。

6 その他

【千歳警察署生活安全課より情報提供】

坂口氏（委員代理）：

特殊詐欺の被害が全国的に続いており、新たな手口や対象者が増え続けている現状に対し、警察庁から広報ツールとして紹介のあったスマートフォン用アプリケーションについて共有させていただきます。

紹介するのは2種類のアプリです。1つ目はNTTタウンページが開発した「サギ対策アプリ」です。詐欺の多くは電話でのやり取りから始まりますが、このアプリは国際電話からの着信をブロックしたり、着信時に警告メッセージを表示したりする機能があります。国際電話は通常の生活ではあまり使われませんが、犯行グループが拠点とする海外からの電話に出てしまい、口車に乗せられてしまうケースを防ぐために非常に効果的です。また、犯罪に使用された電話番号のデータベースとリンクして

おり、怪しい番号を識別する仕組みも備わっています。

2つ目は「詐欺バスターライト」というアプリです。機能はほぼ同様ですが、国際電話のブロックや警告メッセージに加え、最新の詐欺手口や被害状況を確認できるニュース機能、電話帳に未登録の番号でもネット上の情報を検索して事業者名を表示する機能などがあります。

委員の皆様もぜひインストールして活用いただき、身近な方々へも広めていただければ幸いです。

【千歳警察署より恵庭市の犯罪発生状況・交通事故発生状況などについて説明】

中川委員(恵庭交番所長)：

はじめに、本日ここにお集まりの委員の皆様には日頃から警察活動各般にわたりご協力・ご支援を賜り御礼・感謝を申し上げます。

恵庭市の昨年1年間の犯罪発生状況や交通事故発生状況、詐欺や特殊詐欺の発生状況につきましては、先ほど事務局から説明があったところであります。

私からは今年1月から4月末までの事件・事故の発生状況などについて、簡単に説明をさせていただきます。

まず、今年に入り恵庭市内で発生した刑法犯の認知件数は、65件となっており、昨年の同時期で92件であったので減少傾向にあります。

窃盗犯(自転車盗)が引き続きJR駅周辺での自転車盗難が目立っています。多くは一時的な足代わりとして利用し、目的地付近で乗り捨てられるケースとみられます。無施錠での被害が多いため、改めて施錠の徹底を呼びかけております。

交通事故については、令和4年1月16日の北柏木での事故を最後に、交通死亡事故ゼロの期間が860日を超えています。しかし、自宅駐車場でのバック中の事故や、中央分離帯への衝突など、一歩間違えれば重大事故になる事案は絶えず発生しています。人身事故件数は4月末時点で39件(前年同期36件)と微増傾向にあります。

投資詐欺関係ですが、特殊詐欺の中でも、今月、恵庭市内で1,000万円を超える投資詐欺の被害が確認されました。被害者の方は「自分は正しい投資をしている」と信じ込んでいるケースが多く、被害を認めたくない心理から警察への相談が遅れる傾向があります。周囲で投資の話聞いた際は、まず疑ってみよう助言をお願いします。

もう一点、犯罪被害者等支援に関するお願いです。配布した北海道の地図で赤く塗られている自治体は、すでに支援条例を制定している場所ですが、恵庭市などはまだ未制定(白抜き)の状態です。

犯罪被害に遭われた方は、経済的な困窮や心身の深い傷により、その後の生活を立て直すのが非常に困難です。警察の支援は捜査が終了するまでが主であり、民間のボランティア支援にも限界があります。

身近な行政が見舞金の支給や継続的な生活支援を制度化していただくことは、被害者にとって大きな安心につながります。現在、国を挙げてこの取り組みを推進しておりますので、条例制定に向けた機運が高まるよう、皆様のお力添えをお願いいたします。

原田会長：

貴重なお話をありがとうございました。一点伺いたいのですが、最近ニュースでよく耳にする「闇バイト」に少年たちが関わってしまうきっかけは、どのようなものなのでしょうか。

坂口委員代理：

一概には言えませんが、SNSなどの募集、身近な先輩などからの声掛けなどあると聞いています。

中川委員：

ケースバイケースですが、以前からある「仲間内での勧誘」という人間関係によるものの他に、現在はSNSでの「短時間で高額」「楽に稼げる」といった募集が主な入り口となっています。

かつてのように特定の場所に集まらなくても、SNSを通じて全国どこからでも犯罪組織と繋がってしまうのが現在の恐ろしい点です。一度繋がりを持つと、指示役から抜け出せないよう脅されることもあります。

恵庭のような地域の繋がりがあある町であれば、周囲の大人が若者の不審な動きやSNSの使い方を目を配り、情報を共有していただくことが未然防止や早期発見に繋がると考えております。

原田会長：

ありがとうございます。

他に発言等がなければ、以上で令和8年度 第1回 安全で安心なまちづくり実行委員会を閉会いたします。

～閉 会～